

学校外の体験活動に関するアンケート調査結果(速報)の概要について

I 調査の趣旨

青少年の豊かな社会性や規範意識を育む体験活動を促進するため、県内の学校においては、「埼玉の子供70万人体験活動」として授業や行事等において、様々な体験活動が行われている。

一方で、少子化や核家族化、地域の間関係の希薄化などにより、地域での自然体験や社会体験などの機会の減少が懸念されている。

こうしたことから、学校外における体験活動の現状と参加者の意識等を調査し、今後の地域における体験活動促進のための方策の検討を行う。

II 調査の概要

1 調査方法

- (1) 対象学年の人口比等を参考に、4地域（東、西、南、北・秩父地域）ごとの調査対象学校を定める。
- (2) 調査対象学校において、クラスを単位として無記名式アンケート票を、児童・生徒、保護者に配布し、回収する。
- (3) 県において、アンケート票の集計・分析等を行う。

2 アンケート票配布・回収時期

平成25年12月～平成26年1月

3 アンケート回答数

区分	合計	東部	南部・中央	西部	北部・秩父
小学生(5・6年生)	818人	160人	270人	255人	133人
中学生(2年生)	948人	205人	317人	286人	140人
小学生の保護者	713人	155人	252人	177人	129人

【男女別】

区分	男子	女子	未回答
小学生(5・6年生)	401人(49%)	412人(50%)	5人
中学生(2年生)	483人(51%)	460人(49%)	5人

小学生の保護者	父	母	その他	未回答
	51人(7%)	655人(92%)	3人(1%)	4人

Ⅲ 集計結果の概要

1 学校外の体験活動について

(1)直近2年間で体験活動への参加状況（小中間5）

【参加・不参加の状況】

区分		小学生	中学生
いずれかの参加経験あり	計	68%	47%
	男	70%	47%
	女	66%	47%
参加したことがない	計	32%	53%
	男	30%	53%
	女	34%	53%

【参加したことの活動の種類】

区分	小学生	中学生
自然体験	34%	20%
仕事体験	26%	22%
生活体験	28%	13%
伝統芸能体験	27%	13%
文化芸術体験・スポーツ体験	37%	18%
社会貢献活動（ボランティア）	30%	22%
その他	3%	2%

【複数回参加した割合】

区分	小学生		中学生	
	複数回	1回	複数回	1回
自然体験	66%	34%	67%	33%
仕事体験	52%	48%	22%	78%
生活体験	55%	45%	49%	51%
伝統芸能体験	49%	51%	55%	45%
文化芸術体験・スポーツ体験	61%	39%	56%	44%
社会貢献活動（ボランティア）	61%	39%	57%	43%
その他	59%	41%	47%	53%

<考察>

- 小学生の7割は、いずれかの種類の参加体験はあるものの、個別の種類ごとの参加経験はいずれも3割前後にとどまっている。
- 中学生の体験活動の参加状況は小学生に比べて低く、5割弱となっており、個別の

種類ごとの参加経験は2割前後となっている。

○ 体験の種類ごとの意義や効果の周知を図るなど、様々な種類の体験活動への参加促進を図る必要性がある。

○ 継続的に参加している体験活動（複数回参加）としては、「自然体験」や「社会貢献活動」が比較的高いが、全体的に4割から5割程度が1回限りと考えられる。特に中学生の「仕事体験」については、一回限りの傾向が強い。

(2) 参加した理由（小中間6）と参加したことのある活動の種類（小中間5）との関係

【参加した理由（上位5項目）】

区分	小学生	中学生
自分の興味があることだったから、得意なことだったから	63%	49%
自分の知らないことや、やったことのないことを知りたかったから	33%	31%
将来の仕事のことや生活などに役に立つと思ったから	23%	28%
友だちと一緒に参加するから	35%	34%
親やまわりの大人にすすめられたから	34%	33%

【体験活動の種類ごとの参加した理由の内訳（小学生）】

区分	得意なことだったから	自分の興味があることだったから	自分の知らないことや、やったことのないことを知りたかったから	自分の知らないことや、やったことのないことを知りたかったから	将来の仕事のことや生活などに役に立つと思ったから	学校以外の友だちがつくれると思ったから	年の違う仲間や大人たちと親しくなれると思ったから	住んでいる地域のことに役に立ちたいと思ったから	友だちと一緒に参加するから	から	親やまわりの大人にすすめられたから	められたから	学校の先生に参加するようにすすめられたから	その他
自然体験	71%	43%	29%	18%	14%	9%	32%	32%	1%	6%				
仕事体験	70%	42%	36%	11%	12%	13%	30%	37%	2%	7%				
生活体験	70%	42%	33%	13%	11%	11%	33%	37%	1%	6%				
伝統芸能体験	73%	40%	28%	15%	14%	15%	29%	33%	2%	7%				
文化芸術体験・スポーツ体験	75%	40%	29%	11%	8%	11%	35%	31%	2%	5%				
社会貢献活動	57%	35%	27%	10%	12%	24%	27%	39%	2%	8%				
全体	63%	33%	23%	12%	12%	13%	35%	34%	2%	8%				

【体験活動の種類ごとの参加した理由の内訳（中学生）】

区分	得意なことだったから	自分の興味があることだったから	自分の知らないことや、やったことのないことを知りたかったから	自分の知らないことや、やったことのないことを知りたかったから	将来の仕事のことや生活などに役に立つと思ったから	学校以外の友だちがつくれると思ったから	年の違う仲間や大人たちと親しくなれると思ったから	住んでいる地域のことに関心があったから	友だちと一緒に参加するから	親やまわりの大人にすすめられたから	学校の先生に勧められたから	その他
自然体験	59%	40%	30%	13%	10%	13%	28%	38%	9%	5%		
仕事体験	50%	36%	43%	9%	9%	14%	31%	28%	17%	6%		
生活体験	58%	44%	40%	13%	12%	17%	31%	35%	14%	6%		
伝統芸能体験	61%	39%	26%	12%	12%	13%	44%	34%	12%	7%		
文化芸術体験・スポーツ体験	65%	39%	36%	15%	11%	14%	26%	30%	11%	7%		
社会貢献活動	41%	31%	28%	8%	8%	28%	36%	37%	17%	9%		
全体	49%	31%	28%	9%	8%	16%	34%	33%	15%	8%		

<考察>

- 小・中学生とも『自らの興味・関心』が参加理由として最も高くなっているが、『友達と一緒に』や『親のすすめ』による参加も一定割合を占めている。こうした働きかけも参加のきっかけの一つとしては有効と考えられる。
- 中学生については、小学生と比較すると『自らの興味・関心』を参加理由として挙げる割合が低くなっている。
一方で仕事体験や生活体験に『将来の仕事や生活に役に立つ』を理由としてあげる割合は小学生に比べると高い傾向にあるほか、全体に『学校の先生に勧められた』の割合が高くなっている。
- 小・中学生とも『学校以外の友達をつくる』『年の違う仲間や大人と親しくなる』の項目の割合は低くなっている。

(3) 体験活動による効果や影響（小中間 8・保問 5）と参加前の理由（小中間 6）との関係

【体験活動による効果や影響の自覚（上位 3 項目と変化なしの項目）】

区分	小学生	中学生
友だちやまわりの人と協力して、何かすることが楽しいと感じた	48%	32%
自分に自信がついた、自信がついたように感じた	34%	30%
将来の仕事や生活のことを考えるようになった	22%	31%
特に変わったようには感じない	18%	22%

【特に変わったように感じない者の体験活動に参加した理由(上位 3 項目)】

小学生		中学生	
自分の興味があることだったから、得意なことだったから	47%	親やまわりの大人にすすめられたから	39%
親やまわりの大人にすすめられたから	47%	友だちと一緒に参加するから	36%
友だちと一緒に参加するから	31%	自分の興味があることだったから、得意なことだったから	26%

【保護者が体験活動に期待する上位 3 項目】

区分	保護者
他人と協力して何かすることに積極的になる	57%
自信をつける	41%
将来の仕事や生活のことを考えるようになる	38%

<考察>

- 一度参加すれば一定の評価を得ているものと考えられるので、まずは参加を促すことが重要である。
- 児童・生徒は、活動を通じての人間関係づくりや協働の価値や楽しさを得たことへの評価が高い。前記(2)参加した理由で『友達づくりや』『異世代との交流』の割合が低かったことと対称的であり、これは活動の継続性にとって重要な点と考えられる。
- 活動への評価が低い者は、他人からの勧めなどの理由で参加した者の割合が高くなっており、参加した活動でいかに意義や効果を感じられるかの工夫が重要である。

(4) 体験後の再参加の意向（小中間 7）と参加前の理由（小中間 6）との関係

【再体験の意向】

区分	小学生	中学生
もう一度参加したい	88%	82%
もう一度参加したいと思わない	12%	18%

【「もう一度参加したいとは思わない」者の体験活動に参加した理由（上位3項目）】

小学生		中学生	
親やまわりの大人にすすめられたから	48%	友だちと一緒に参加するから	44%
自分の興味があることだったから、得意なことだったから	36%	親やまわりの大人にすすめられたから	39%
友だちと一緒に参加するから	36%	学校の先生に参加するようにすすめられたから	23%

<考察>

- 一度参加すれば一定の評価を得ることができるので、まずは参加を促すことも重要である。
- 活動への評価が低い者には、他人からの勧めなどの理由で参加した者の割合が高くなっており、参加した活動でいかに意義や効果を感じられるかの工夫が重要である。

(5) 体験活動に参加しなかった理由（小中間9・保問7関係）

【小学生・中学生が参加しなかった理由（上位3項目）】

区分	小学生	中学生
どんな活動があるか知らなかったから	28%	41%
興味のある活動・やりたい活動がなかったから	27%	23%
勉強や習い事などで忙しいから	19%	26%

【中学生における体験活動への参加者、不参加者の部活やクラブ、塾等の加入状況】

所属している団体等	参加者	不参加者
学校の部活（運動部）	74%	74%
学校の部活（文化部）	19%	20%
子ども会	3%	2%
スポーツ少年団	6%	5%
水泳やサッカーなどの企業が行っているスポーツ教室・クラブ	14%	11%
ガールスカウト・ボーイスカウト	1%	0%
学習塾、予備校など	55%	58%
ピアノや習字、絵画、英語教室などの教室・おけいこごと習い事・お稽古ごと	22%	18%
その他	4%	3%
特に入っていない	1%	1%

【小学生の保護者が体験活動に参加できない・させられないと考える理由（上位3項目）】

区分	保護者
場所・会場が遠い	41%
子供が関心を示さない・子供が嫌がる	43%
自分（保護者や周りの人）の都合がつかない	42%

【参加しやすくなるために必要と考えること（上位3項目）】

区分	小学生	中学生	保護者
いろいろな種類の体験活動が選べる	42%	47%	39%
近くの場所や会場で行われる	43%	49%	65%
無料または安い費用で行われる	45%	51%	47%

<考察>

- 『知らない』ことが、不参加理由の多数を占めており、活動の内容や意義と効果などの周知の工夫が必要である。
- 中学生は『忙しい』ことを理由とする不参加の割合が高いが、参加者・不参加者の部活や塾等の加入状況に大きな違いは見られない。しかし、こうした中学生の生活に配慮した、参加しやすい開催方法や内容の工夫が求められる。
- 参加のための環境整備としては、『近く』で『安い』開催が望まれている。

(6) 体験活動の参加募集を知る手段（小中間 11・保問 6）

【参加者募集を知る手段（上位3項目）と募集を知らない割合】

区分	小学生	中学生
学校で配られたチラシやお知らせなど	64%	64%
自治会や子ども会、PTA、スポーツ少年団などからののお知らせ、回覧板など	36%	30%
親や近所の大人から教えてもらった	36%	27%
参加者の募集を見たことがない	5%	9%

【保護者の上位3項目と募集を知らない割合】

区分	保護者
学校で配られたチラシやお知らせなど	90%
自治会や子ども会、PTA、スポーツ少年団などからののお知らせ、回覧板など	70%
図書館や公民館などの施設でのポスターやチラシなど	42%
参加者の募集を見たことがない	2%

【メディアにより知る機会の状況】

区分	小学生	中学生	保護者
新聞・雑誌	15%	17%	15%
インターネットや電子メール	10%	13%	11%

<考察>

- 学校外の体験活動であっても、その広報・周知には学校の協力が不可欠である。
- インターネットによる広報・周知を活用するには、そのサイトに誘導するための工夫が必要である。

(7)今後参加したい活動（小中間 12・保間 9）

【小学生・中学生の今後参加したい活動（上位 3 項目）】

区分	小学生	中学生
自分の興味のあること・得意なことを伸ばせる	68%	70%
自分の知らないことや初めてのことに挑戦できる	43%	37%
将来の仕事や生活に役に立つ	45%	52%

【小学生の保護者の参加させたい活動上位 3 項目】

区分	保護者
自分の興味のあること・得意なことを伸ばせる	69%
自分の知らないことや初めてのことに挑戦できる	67%
将来の仕事や生活に役に立つ	36%

【参加者と不参加者の今後の参加したい活動の比較】

区分	小学生		中学生	
	参加者	不参加者	参加者	不参加者
自分の興味のあること・得意なことを伸ばせる	71%	60%	71%	69%
自分の知らないことや初めてのことに挑戦できる	48%	31%	37%	36%
将来の仕事や生活に役に立つ	43%	48%	48%	55%
学校以外の友だちがたくさんできる	18%	14%	14%	14%
年の違う仲間やいろいろな大人たちと知り合える	12%	5%	9%	4%
自分の住んでいる地域や世の中にとって役に立つ	15%	12%	19%	13%
その他	1%	0%	2%	1%
特にない	10%	26%	13%	22%

【以前に参加した時の参加理由と今後参加したい活動の比較】

区分	小学生		中学生	
	前	今後	前	今後
自分の興味のあること・得意なことを伸ばせる	63%	71%	49%	71%
自分の知らないことや初めてのことに挑戦できる	33%	48%	31%	37%
将来の仕事や生活に役に立つ	23%	43%	28%	48%
学校以外の友だちがたくさんできる	12%	18%	9%	14%
年の違う仲間やいろいろな大人たちと知り合える	12%	12%	8%	9%
自分の住んでいる地域や世の中にとって役に立つ	13%	15%	16%	19%
その他	8%	1%	8%	2%

<考察>

- 不参加者の『自己の興味・好奇心』に関する参加意向は、参加者に比べて低いが、『将来の仕事・生活』に関する活動については比較的高い。
- 参加者の、以前の参加理由と今後の参加したい活動を比較すると、『将来の仕事・生活』に役立つ活動への関心の増加が著しい。

2 地域について

(1)地域の愛着度（小中間 14）

【地域の愛着度】

区分	小学生		中学生	
好き	53%	76%	38%	69%
どちらかといえば好き	23%		31%	
あまり好きではない	5%	6%	5%	6%
嫌い	1%		1%	
何とも思わない	13%		22%	
わからない	5%		4%	

○ 小学生・中学生とも概ね7割程度が「好き」の分類を占める。「嫌い」の分類はいずれも6%となっている。

(2)地域の活動（小中間 15・保問 3）

【地域の活動(上位3項目)】

区分	小学生	中学生	保護者
地元のお祭り	84%	82%	85%
地元のスポーツやレクリエーションの大会など	35%	32%	52%
地域の清掃や防災などの活動	35%	38%	48%

※保護者とは、子供と一緒に参加した活動。

○ 小・中学生とも、ほとんどの児童・生徒はお祭りの参加経験がある。

(3)埼玉県について誇りに思うこと・自慢したいこと（小中間 16）

【誇りに思うこと・自慢したいこと（上位5項目）】

	小学生		中学生	
1	アニメや映画の舞台	42%	食べ物・名物	36%
2	食べ物・名物	40%	アニメや映画の舞台	34%
3	アミューズメント施設	24%	アミューズメント施設	25%
4	名産・特産品	23%	祭り・伝統芸能	23%
5	スポーツ	22%	スポーツ	19%

○ 小・中学生とも、食べ物・名物では、「深谷ねぎ」「草加せんべい」、アニメや映画の舞台では、「クレヨンしんちゃん」「となりのトトロ」、アミューズメント施設では、「埼玉スタジアム」「鉄道博物館」などが具体的に多く名前が挙がっている。

(4)大人になったらどこに住みたい場所（小中間 18）

【住みたい場所】

区分	小学生	中学生
今住んでいる地域	24%	21%
東京都心	19%	17%
その他の国内の地域	22%	17%
外国	8%	10%
わからない	26%	33%

3 地域別の比較

(1) 地域別のクラブ・団体等への参加状況

区分	小学生				中学生			
	東	西	南・中	北・秩	東	西	南・中	北・秩
学校の部活（運動部）	-	-	-	-	70%	75%	76%	74%
学校の部活（文化部）	-	-	-	-	22%	17%	20%	19%
子ども会	30%	20%	20%	31%	2%	1%	3%	1%
スポーツ少年団	28%	23%	25%	29%	5%	4%	5%	9%
企業のスポーツ教室・クラブ	21%	29%	36%	21%	19%	11%	12%	9%
ガールスカウト・ ボーイスカウト	1%	0%	1%	1%	1%	0%	0%	1%
学習塾、予備校など	29%	43%	38%	28%	52%	57%	62%	51%
ピアノや習字、絵画、英語教室 などの教室・おけいこごと	38%	43%	50%	38%	17%	23%	21%	19%
その他	7%	9%	11%	14%	3%	3%	3%	5%
特に入っていない	13%	10%	9%	11%	2%	1%	0%	1%

○ 特に地域ごとの大きな差異は見られない。

(2) 参加した体験活動の種類

区分	小学生				中学生			
	東	西	南・中	北・秩	東	西	南・中	北・秩
自然体験	34%	35%	29%	47%	14%	21%	22%	19%
仕事体験	21%	27%	29%	26%	13%	30%	26%	13%
生活体験	27%	27%	29%	32%	10%	13%	15%	14%
伝統芸能体験	22%	25%	24%	38%	9%	15%	13%	13%
文化芸術体験・スポーツ体験	38%	35%	37%	43%	17%	21%	19%	14%
社会貢献活動（ボランティア）	23%	35%	30%	33%	18%	24%	22%	26%
その他	2%	3%	3%	3%	3%	1%	1%	2%
参加したことがない	34%	33%	33%	29%	64%	50%	50%	49%

○ 北部・秩父地域の小学生の自然体験、伝統芸能体験の割合が高い傾向がみられる。

(3) 地域への愛着度

区分	小学生				中学生			
	東	西	南・中	北・秩	東	西	南・中	北・秩
好き	54%	49%	54%	56%	42%	37%	33%	45%
どちらかといえば好き	21%	18%	27%	26%	30%	29%	33%	29%
あまり好きではない	3%	5%	4%	5%	3%	7%	3%	4%
きれい	1%	1%	1%	0%	1%	1%	1%	1%
何とも思わない	14%	18%	10%	10%	21%	20%	26%	17%
わからない	6%	8%	3%	4%	3%	6%	3%	3%

○ 地域ごとに大きな差異は見られない。

(4) 埼玉県について誇りに思うこと・自慢したいこと

区分		東部		西部		南部・中央		北部・秩父	
		小学生	中学生	小学生	中学生	小学生	中学生	小学生	中学生
1	自然や風景	13%	12%	20%	17%	13%	13%	29%	24%
2	食べ物・名物	53%	48%	31%	31%	35%	32%	50%	35%
3	名所や歴史的な建物	21%	16%	15%	13%	13%	12%	22%	16%
4	名産・特産品	29%	21%	15%	5%	32%	16%	14%	5%
5	街並み・都市	3%	5%	15%	19%	10%	10%	5%	4%
6	祭り・伝統芸能	13%	19%	18%	23%	11%	9%	58%	61%
7	アミューズメント施設	21%	28%	17%	18%	36%	34%	20%	11%
8	スポーツ	18%	15%	21%	15%	26%	27%	20%	17%
9	偉人・有名人・著名人	9%	11%	8%	8%	7%	5%	12%	6%
10	気候・風土	11%	5%	4%	8%	7%	7%	17%	19%
11	アニメや映画の舞台	53%	37%	41%	35%	41%	34%	32%	25%
12	その他	1%	2%	3%	2%	3%	2%	2%	0%
13	わからない	8%	16%	16%	25%	9%	22%	5%	8%

○ 具体的には、東部地域の食べ物・名物は、「草加せんべい」。アニメや映画の舞台は「クレヨンしんちゃん」。西部地域の街並み・都市では、「川越の蔵造りの街並み」、アニメや映画の舞台は「となりのトトロ」。南部・中央のアミューズメント施設では、「埼玉スタジアム」、スポーツは「浦和レッズ」。北部・秩父の食べ物・名物は「深谷ねぎ」、祭り・伝統芸能は「秩父夜祭り」が多く挙げられている。。

(5) 大人になったらどこに住みたいか

区分	小学生				中学生			
	東	西	南・中	北・秩	東	西	南・中	北・秩
今住んでいる地域	30%	16%	27%	29%	21%	21%	21%	21%
東京都心	18%	19%	16%	26%	18%	17%	17%	19%
その他の国内の地域	24%	25%	23%	13%	17%	16%	20%	14%
外国	8%	9%	9%	4%	9%	13%	9%	7%
わからない	20%	30%	25%	28%	34%	32%	31%	37%

IV 今後の学校外の体験活動促進策の検討についての観点

1 体験活動の意義や効果の周知と学校と連携した体験活動の周知の工夫

- 自発的な参加と継続的な活動の促進を図るため、体験活動の意義と効果への理解と関心を高めるための広報について検討する。
- 学校を通じた周知が不可欠であることから、学校の理解を得られるような協力体制を検討する（事務負担・信頼性等）
- 多様な情報を提供するためには、インターネットの活用が有効であるが、その情報が効果的に児童・生徒・保護者に届くための学校を絡めた周知方法を検討する。

2 参加する意欲が低い子供に対する支援等の検討

- 保護者の理解が欠かせないことから、体験活動の意義と効果について周知を図る方策を検討する。
- 学校で行われている「埼玉の子供 70 万人体験活動」への参加等を契機に、興味や関心を持続させ、継続的に活動に参加できるよう、学校と地域団体等との連携・協力等の方策を検討する。

3 中学生の体験活動促進の検討

- 学校で行われている「埼玉の子供 70 万人体験活動」を補完し充実させる方策を検討する。
- 中学生の関心も高い「仕事体験」に関して、学校や企業等と連携し、様々な種類の仕事体験や参加機会が得られるような方策・協力体制を検討する。

4 市町村や地域団体等の活動充実のための検討

- 身近な地域での参加機会の充実を図るため、市町村や地域団体の活動の充実の方策を検討する。
- 様々な活動メニューに、身近で参加できるよう地域間や団体間の連携・役割分担等（活動マップ等）の方策を検討する。